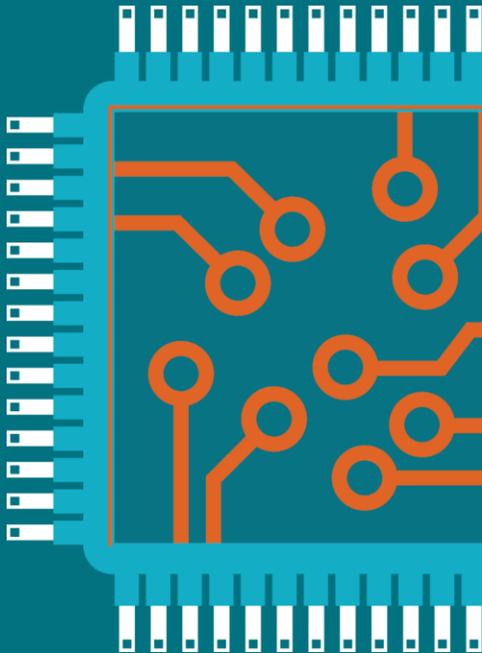


# ロボテック 戦略

アクサIM株式

2025年2月



## ロボット工学の活用で進む建設業界の効率化

ロボット工学は、近年の歴史において、イノベーター（革新者）達が一番考えをめぐらせてきたテーマであると言えます<sup>1</sup>。今日（執筆時）、デジタル・トランスフォーメーション（デジタル技術を活用してビジネスモデルや業務プロセスを革新する取り組み）を支える高度な技術能力は、実際にさまざまなセクターや産業においてビジネス機会を生み出しています。ロボット工学と自動化が統合することによって、コスト削減、生産性の向上、そして産業規模での持続可能性の向上が期待されています。

投資家にとって重要なのは、デジタル・トランスフォーメーションの受け入れと加速は、これらの能力が出始めた頃の実験的なものから飛躍的に発展を進め、具体的な日常業務に統合されてきているということです。そしてそれは、思いもよらないビジネス分野でも起きているのです<sup>2</sup>。

その良い事例が建設業であり、この誰もが知るグローバルな巨大産業が、いかにロボット工学や自動化により根本的かつ継続的な改善がもたらされる可能性があるのかを示しています。建設は、私たちに建物や家屋など住まいを提供してくれるだけでなく、道路、交通、インフラ、そして社会の継続的な機能に必要な多くの重要なシステムも提供しています。従来、建設プロジェクトは予算を超過することや納期を逃すことが多々あり、また、世界の廃棄物の約3分の1を生み出しており、結果的に世界の二酸化炭素排出量の40%以上を占めていま

す<sup>3</sup>。世界経済フォーラムは、世界の建設業界に必要な変革がなされていないことをほぼ10年前から言及し続けています<sup>4</sup>。

世界の人口増加、資源不足、そして価格上昇が進むにつれて、建設のような資源を大量に消費する産業において効率性を高めることは、地球環境だけでなく企業収益の面からも、ますます緊急性を増していきと見えています。この点における例として、米国のソフトウェア企業プロコア・テクノロジーズは、より安全で効率的かつ持続可能な未来に貢献することが期待されます。同社では、自動化機械やシステムを提供することでパフォーマンスを改善し、建設作業やワークフローに関連する新たな可能性を創出することを使命としています<sup>5</sup>。同社は、手動操作で行われる作業の効率性、安全性と廃棄物排出量を既存の技術の活用によって改善できる多くの機会を特定しています。例えば、現場のデータ収集、測量および敷地配置図の作成にドローンを活用することで自動設計や高速計算が可能となり、また人的ミスを削減することができます。同社はさらに、据え付けや品質管理機能を果たす使い捨て型のロボット群も提供しています。これらにより、精度の向上と一貫性が得られ、人間の労働力をより複雑で創造的な（そして多くの場合、より危険の少ない）作業のために解放できるという二重の利点があると見えています。

この変革における重要な企業の例としてもう

一社、アメリカのソフトウェア企業トリプルを取り上げます。トリプルは、伝統的に非効率さに悩まされてきた産業に対して自動化とデジタル精度（デジタル技術によって達成される高い精度と正確さ）をもたらすことを目指しています。同社は、もともとはGPS技術で知られていましたが、現在は建設、農業、輸送のワークフローを最適化するソフトウェアとハードウェアのソリューションを提供しています。建設においては、現場の位置決めを自動化し、機械を制御するトリプルの技術は精度を向上し廃棄物の量を削減します。同社のソリューションはAIとセンサーとコネクティビティ（接続のしやすさ）を統合してリアルタイムの意思決定を改善し、プロジェクトが予算とスケジュール通りに進むよう支援します。より「スマート」な運営が可能にすることで、トリプルは複数の産業にわたり持続可能性と収益性の向上に重要な役割を果たしていると見えています。

こうした多様性と応用範囲の拡大は、ロボット工学の成長可能性の主要な推進力の一つです。世界の建設関連ロボティクス市場は、急速な成長と広範な採用により、2032年までに7億7500万ドルの規模に成長すると予測されています。

これらのような企業は、ロボット技術そのものに興味を持つ投資家や、ロボット技術の長期的な成長可能性を適切に多様な形で捉えようとする投資家にとって示されるダイナミックは成長機会の一部に過ぎないと考えています<sup>6</sup>。

**企業への参照は例証のみを目的としており、個別銘柄への投資を推奨するものではありません。**

<sup>1</sup> [History of industrial robots: Complete timeline from 1930s](#) | <sup>2</sup> [What is Digital Acceleration and how to embrace it?](#) | <sup>3</sup> [How to Reduce Waste in Construction | Business Waste](#) | <sup>4</sup> [The Long-Overdue Transformation of the Construction Industry > Press releases | World Economic Forum](#) | <sup>5</sup> [Exploring Construction Robotics: Types, Benefits & Real-World Applications | Procore](#) | <sup>6</sup> [The Rise of Construction Robots in 2024 - Highways Today](#)

# ロボテック 戦略

アクサIM株式

## ご留意事項

本資料は情報提供のみを目的としており、特定の有価証券やアクサ・インベストメント・マネージャーズまたはその関連会社による投資、商品またはサービスを購入または売却するオファーを構成するものではなく、またこれらは勧誘、投資、法的または税務アドバイスとして考慮すべきではありません。本資料で説明された戦略は、管轄区域または特定のタイプの投資家によってはご利用できない可能性があります。本資料で提示された意見、推計および予測は掲載時の主観的なものであり、予告なしに変更される可能性があります。予測が現実になるという保証はありません。本資料に記載されている情報に依存するか否かについては、読者の独自の判断に委ねられています。本資料には投資判断に必要な十分な情報は含まれていません。

## 投資リスクおよび費用について

当社が提供する戦略は、主に有価証券への投資を行いますが、当該有価証券の価格の下落により、投資元本を割り込む恐れがあります。また、外貨建資産に投資する場合には、為替の変動によっては投資元本を割り込む恐れがあります。したがって、お客様の投資元本は保証されているものではなく、運用の結果生じた利益及び損失はすべてお客様に帰属します。また、当社の投資運用業務に係る報酬額およびその他費用は、お客様の運用資産の額や運用戦略（方針）等によって異なりますので、その合計額を表示することはできません。また、運用資産において行う有価証券等の取引に伴う売買手数料等はおお客様の負担となります。

## アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社

金融商品取引業者 登録番号: 関東財務局長（金商）第16号

加入協会: 一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人投資信託協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会、日本証券業協会